

会員出版祝賀会

日時 2020年2月22日(土) 12:00~14:00

会場 烏丸京都ホテル「入舟」

出席 13名

昨年12月、久代佐智子会員が御著書「旅人」を私たち会員にお送り下さいました。会員の中から「素晴らしい作品に感動しました。」「先生をお招きしてお話を聞きたい!」等の声上がり、久代先生を囲んで出版のお祝いのお会を開くことになりました。当日は、ホテルの和食処で食事をしながらの充実した楽しい歓談の一時でした。



最初に高橋支部長から「今日は先生のご本を中心に、ごゆっくりと歓談の時にして頂ければと思います。」との挨拶がありました。続いて、著者の久代会員が「この本が形になります前には、実は、会員の田中ひな子さん、中村泰子さんに本当にお世話になりました。言葉についての貴重なご意見とか、京都弁の指南も頂き、お礼を申し上げたいと思います。」「あの当時(第2次大戦中から戦後の混乱期)の大変だったのと今の大変なのは、どこが似ていて、どこが違うのかを考えながら執筆しました。」等と述べられました。出席者からは、読後の感想と共に次々と質問が続き、先生がそれに答えて下さる中で、この本の成り立ちや著書に込められた思いが私たちにもよりはっきりと伝わってきました。最初に書こうと思いついたのは70年、その後現在は老々介護の中で、少しずつ時間を見つけて書き継いでこられたこと。出版に際しては、形にすることだけを考えていたが、2、3日前にちらっと若い人に読んでもらえるように書店の片隅に置かせて欲しいとの思いが頭に浮かんだこと等々。

途中、中村会員の乾杯の音頭で食事が始まりました。「うれしい出版を完成されて、おめでとうございます。戦後70年が経って、(2年先輩の)先生の戦争中の過ごされ方、戦後の教育改革の過程等いろいろな記述を読みながら、自分の人生が懐かしく、勉強させてもらいました。このご本は、若い方が今の恵まれた状況に安住しないで、先に進むきっかけになると思います。今日は素晴らしい先輩をお迎え出来て良かったです。乾杯!」

食事の間も、先生が召し上がる暇が無い位、会員からの質問で話が盛り上がりました。表紙カバーの折り返しの英文「My salad days, When I was green in judgment...」(そのころ、万里子はレタスの様に青く、思慮分別が未熟であった「万里子の航路」冒頭)は、シェークスピア「アントニーとクレオパトラ」のクレオパトラの言葉からの引用で、カバー

の緑はレタスの色。タイトルの「旅人」は最初から決めていたこと。非常に遠い旅‘万里’から作中の主人公の名前を‘万里子’と名付けたこと。日本語の文体は、19世紀初めから20世紀にかけての英国の作家の英語の文体を真似て、直接話法と間接話法をミックスする手法を取り入れたこと。若い人が余り抵抗無しに読める様に意を尽くしたこと等々。興味深い話が尽きませんでした。

最後にプレゼントのお花と著書を手笑顔の先生を囲んで、記念写真を撮り解散しました。このご本を是非書店に置ける形で再出版して、多くの人々特に若者に読んでほしいというのが出席者一同の願いです。

